

画像診断センターでの 技術ライフ



匿名 (霞クリニック)

仕事編

1

Q 診療放射線技師を目指した きっかけ

A 高校時代に進路を考える時、就職活動に苦勞するのが嫌だったので、就職に有利な資格が取れる学校に行きたいと思ったのが最初です。また、あまり勉強自体が好きではなかったので、せっかく勉強するのなら専門的な分野に絞って勉強したいと思っていました。

もともと安定して需要のある業界として医療系にしたいと思って色々な仕事を調べているうちに、兄の友達に診療放射線技師の方がいて興味を持ちました。それまで診療放射線技師という仕事があるというのもしりませんでした。

診療放射線技師の資格が取れる大学を選んで進学して、そこで放射線物理、撮影技術、電気工学などを勉強して資格を取りました。使わない科目の勉強をするよりは、仕事に必要な科目だけ勉強したいという高校生の時の思いが叶った形です。

2

Q やりがいを感じる時

A 診療放射線技師になって始めの頃は単純にレントゲンの画像が上手に撮れたりとか、習ったことが自分で出来るようになるだとか、技術が上達することを嬉しく思っていました。それから患者さんとのコミュニケーションにもやりがいを感じています。

ある程度経験を積んだ今は、得たことを活かせる時や新しい

ことを学ぶ時に、仕事の面白さを感じます。骨撮影、いわゆる一般撮影検査ではある程度撮影方法が確立され、基本の角度などは決まっていますが、患者さんに合わせて調節して撮影しています。それがうまくいくと嬉しいです。

初めは何が「いい写真」と呼ばれるものか分からなかったのですが、何度も撮影したり上手な人に教わったりして上達していくのを実感できます。

現在勤務している霞クリニック(図1)は画像診断センターなので、モダリティを持っていない近くのクリニックや、大学病院で何週間も検査枠が埋まっているが急いで画像が欲しいという場合に撮影を依頼されます。

また正確な放射線診断専門医のレポートをつけてお返しするのが選ばれる理由となっています。画像診断に特化したクリニックなだけに、わたしたちには読影医にとってより診断しやすい画像を提供することが求められます。

霞クリニックでは(株)エムネスの放射線診断医が同じ検査室



図1 霞クリニック外観